

## 視察報告書

### 【目的】

他施設での運営や活動を知り、自施設での今後の運営にいかす

### 【先進地視察先】

在宅療養ネットワーク      医療法人かがやき      うりずん      Burano  
MAGGIE's TOKYO      オレンジキッズケアラボ      くるみの森      ややのいえ

### 【学んだこと】

施設の構造は、立ち寄りやすいように、外観は木の柔らかさ、温かみがあり、室内は花やいろいろな素材・種類のクッション、ソファなどが用意され、緊張を和らげリラックスできるような環境作りがされている施設が多かった。玄関前に大きな屋根があり、天候不良でも車や車いすでの移動も考えられ誰もが利用しやすい環境となっている。そして、働くスタッフの方々は、柔らかく朗らかな雰囲気であり、安心して話ができ、相談しやすい、心のよりどころでもあるような場所となっている。また、フリースペースでは、イベントや研修などの開催、子供食堂、地域の方に利用してもらおう場として、さまざまな人の交流の場として利用できるようになっている施設もあった。

ホームホスピスでは、高齢や病気、障がいなどにより自立した生活が難しい人たちが、可能な限り自宅生活に近づけた生活様式や、季節を感じる庭が見える部屋作りを意識し、人生の最期まで自宅のように暮らせる場所を目指している。自施設でも、生活空間でその人の人生を優しく支えられるような環境作りや接し方を心がけていきたい。

排泄ケアを通じて自立支援を考える取り組みに尽力されている事業所では、90歳代であってもオムツではなく、パンツで過ごせる排泄ケア実際の取り組みを聴くことができた。排泄がいかにその人の健康と個人の尊厳に大きな影響を及ぼすかについて考えることができた。

児童発達支援では、部屋ごとに天井の高さや模様を変え、違いを感じることができる設計や、施設内の設備は子どもたち目線で設計され、子どもたちが安心して楽しく自由に動き、過ごせるよう工夫されていた。いきいきと笑顔で遊ぶ子どもの表情が印象的であった。触って気持ちよいもの、音楽なども含めて、「心地よい」と感じるものを知ること、五感を大切にすること、子どもたちが楽しいと思えることを、一緒に活動するスタッフも共に楽しむことが大切である。五感を使い、いろいろなことに慣れ、楽しむ、できるようになることから自信になり、成長につながることを学んだ。自施設でも、畳の部屋で過ごすこと、お散歩や遠足などの外に出ること、土や水で遊び、花を育て、野菜の収穫、いろいろな音色の楽器で遊ぶなど、五感を使える環境、子供のやりたいという気持ち、興味を示す瞬間に目を向け、意欲を伸ば

す関わりを大切にしている。これからも、はじめてのチャレンジをつくり、やってみたいという気持ちを大切にしたいと思う。また、育児支援については、親も子も兄弟もそれぞれの自立を見据えた支援をしながらも、困り事、辛い気持ちをサポートし、親と子と共に育児を考えていると感じた。親と子が社会の中で生活できることを目指して、共に考えながらサポートする姿勢も共感できた。

相談支援では、悩みや想いに対して、答えを出すのではなく、利用者自身が考えられること、選ぶことが出来るようにサポートをする事を大切にしていた。あくまでも選ぶのはその人である。対話するとき、つい無言を破ろうとしたり、何か提案しようとしてしまうことがあるが、沈黙は思いをまとめる、整理するのに必要な時間であるという事、リラックスできるようこちらから働きかけることも時には必要であることを学んだ。

視察に訪れた事業所から、会報誌や看取りのパンフレットなどの資料を参考に、自施設でも利用者さんにわかりやすい内容にしたいと思う。今後、HPやパンフレットをリニューアルする予定であるが、さらに Instagram などの SNS も活用したいと考えている。在宅医療や看護、障害福祉、介護について、向き合いにくさや、サービス内容や制度など、実際がわかりにくいのと感じる場面がある。自分たちの役割のひとつは、それらを、たくさんの人に知ってもらうことであると改めて理解できた。

今回の視察では、基本としている考え方、大切にしているところに共感し、自施設での課題や今後の活動などを考えることができた。自施設の理念である「笑顔の瞬間」を大切に、障がいや、病気があってもなくても、0歳から100歳以上まで、誰もが安心して暮らせる地域、社会を実現するために、できることから始めたいと考える。そして、今後も施設間で情報共有や交流の機会をもち、それぞれの拠点から、安心して過ごせる社会を支えられる事業所となるよう努力していきたい。